

育む『思いやりの心』

江陵高「福祉」教育開設10年 上

十勝の高校で唯一、福祉科を有する江陵高校(私立)幕別町依田、生徒383人は、科の前身である福祉コースの開設から10年の節目を迎えた。11日には学校創立60周年と併せ、同校で記念式典を開く。管内外にこれまで多くの人材を輩出してきた同校福祉科の歩みを、2回にわたって紹介する。

2005年4月10日の入学式。新たに開設された福祉コースの1期生27人がきちんとした姿で入場する光景を、鈴木讓二校長(63)は今も忘れない。

教頭から昇格したばかりだった当時を振り返り、鈴木校長は「コース開設の準備を1年余りで進めてきたため不安もあったが、吹き飛んだ。学校の命運を握るこの子たちに勇気つけられていた」と目を細める。



鈴木讓二校長

進む少子化

開設を急いだのには訳があった。第2次ベビーブームの世代が高校生だった平成の初め頃までは、定員割れの心配はそれほどなかった。だが、少子化が進み、中学生人口の減少と比例して同校の入学人数は右肩下がり。04年度には定員120人に対し、47人にまで落ち込んでいた。

「当時はまだ公立志向が

04年、校内はそんな空気で

「何とかしなければ…」

強く、優秀な子は柏葉や三

木校長らで学校の将来を何

度も話し合い、魅力ある「何

か」を模索した。

幾つかの候補の中から、

基幹産業の農業にちなんだ

「食物」と高齢化社会を見据

えた「福祉」が残った。「前

身の池田西高時代、食料料が

あったので正直迷った。た

だ、初期投資の大きさなど

を考え、最終的には福祉に

的を定めた「同」という。

全教諭で福祉科がある置

崖っぷち救った新コース



入学式で入場する福祉コースの1期生。この光景を見て鈴木校長は胸に熱いものを感じた(2005年4月10日)



田代浩司教諭

戸高(オホーツク管内置戸町)を視察、秋の一日体験入学も「手探り状態」のまま開催した。介護実習室を設ける改修や、ベッドなどの備品購入に1200万円ほどかけた。専門教諭も1

手探り状態…準備わずか1年

人を新たに採用した。福祉コース1期生の担任を任されたのは、当時中堅の田代浩司教諭(51)。本来の担当は英語だが、「福祉」の教科免許を取得するため04年、自らの意思で東北福祉大の通信教育部に入学。学校では英語授業と学級担任をこなしながら、2年かけて修了した。

「学校が崖っぷちだった空気は感じていたので、担任としてプレッシャーがあった。実際に福祉を教えるわけではないが、少しでも知識を付けたかった。介護実習に苦勞する生徒の指導などでは、大変役立った」

(田代教諭)

福祉コース開設の効果もあってか、05年度の全入学者は94人(定員117人)と前年度のほぼ倍に。06年度は120人(うち福祉33人)、07年度は113人(同22人)と息を吹き返した。鈴木校長は振り返る。「不思議なもので、学校の雰囲気が良い意味で変わった。福祉が学校全体にプラスの影響を与えた」(佐藤いづみ)